

スキルアップ通信 VOL.132

「どんな人なのかが一発でわかる」銀座のママが初対面で必ず確認する“身体の部位”

～スーツやネクタイより雄弁に語る～

第一印象は顔や服装だけでは決まらない。銀座の高級クラブ「クラブ由美」のオーナー・伊藤由美さんは「初対面の時、顔の次に見られているのが爪。服装や髪形を清潔にしても、爪が不潔な人は第一印象は悪くなる」という。

爪の清潔さで第一印象は大きく変わる

仕事で初対面の人と挨拶を交わすとき、一番最初に目がいくところは、やはり顔でしょうね。2番目は、意外ですが「手」、「手の爪」です。初対面で必ずすることと言えば名刺交換でしょう。その時、名刺を持って差し出す手や手の爪は、否応なしに相手の目に触れることになります。名刺交換のとき以外でも、書類をめくるとき、スマホを操作するとき、パソコンのキーボードを叩くときなど、さまざまなビジネスシーンにおいても、手元は周囲の視線を集めているのです。ただ特に男性の場合、服装や持ち物、髪形に注意を払っていても、爪の手入れには無頓着で、疎かにしがちな人が少なくないように思えます。あまり気にしたことがないという人は気を付けて下さい。手の爪は、その人の印象を大きく左右するファクターなのです。

「爪は口ほどにものを言う」

いつも爪をきれいに切りそろえている人は「清潔感があって、マメで細かいところに配慮が行き届き、私生活もきちんとしている」といった印象を与えるもの。実際に女性からモテますし部屋もデスク周りも整理整頓され、靴やカバンなど身の回りのものの手入れも行き届いていることが多いのです。ところが爪が長く伸びっ放し、爪の間には垢がたまったままのような人は、相手や周囲に不潔感や不快感を与えるだけでなく、「雑そう」「日常生活がだらしないさそう」というイメージを持たれかねません。

ビジネスだけではなく、世の女性陣からも、「男性と会うときは、まず手を見る」「手や指、爪がきれいな男性は好感度も高くなる」という声が聞こえてきます。爪をきれいにしている人は、自分の手元が常に見られていること、そして手や爪が自分のイメージを左右することを自覚している人。爪の手入れを疎かにしている人は、自分が周囲を不快にさせていることに気付かない鈍感な人とも言えるでしょう。まさに、「爪は口ほどにものを言う」のです。

爪の状態は健康のバロメーター

また爪は、その人の健康状態や体の変調が表出しやすい“健康のバロメーター”のような部位でもあります。例えば爪の色。爪は指先の皮膚の下を流れる血液が透けて見えるため、健康な爪は薄いピンク色をしていると言われます。爪の色が白っぽい、黒っぽい、黄ばむ、斑点が出るなど、また、爪が割れる、横筋が出る、でこぼこになるといった症状がある場合、どこかしら体に変調をきたしている可能性もあります。さらに、生活が乱れると荒れてしまうお肌と同様、爪も食事による栄養状態や睡眠、生活リズムなどの影響をしっかりと受けます。不健康そうな色だったり、ダメージを受けてボロボロになった爪からは、偏食や無理なダイエットによる栄養の偏りや、夜更かしや寝不足といった不規則な生活リズムまでがみえてくるのです。つまり、健康的できれいな爪の人は、食生活が充実していて栄養バランスがよく、規則正しい生活を送っている人という印象を与えることもできるのです。とはいえ、女性のように「ネイルサロンでケアをして」とまで言うつもりはありません。長く伸びないうちに切る。小まめに整える。さらには、食事に気を使い、規則正しい生活を心がける。これでいいのです。爪をきれいにする、いつも短く切りそろえておく。これは仕事がデキるとか能力があるといった次元の話ではなく、社会人として最低限の身だしなみです。指の長さや太さ、形はどうにもならなくても、爪の手入れなら誰でもできるのですから。爪は伸びていませんか？爪先が黒ずんでいませんか？自分では気にならなくても、周囲の人はちゃんと見てます。爪先ひとつでビジネスマン失格の烙印を押されかねないのです。世の殿方には、ぜひとも「毎朝出かける前の指先チェック」をルーティンにさせていただきたいと思います。

会話を「でもさあ」と否定で始めてはいけない

「いや、それは違う」「でもさあ」「だけどね」——相手の話を聞くと何でも否定で返してくる人がいます。会話をするとき、いつも否定から入る。そんな人の心の底には「私はあなたよりものを知っている」という優越感、「自分の方が正しい」という傲慢な思い込みがあるように思えます。

スキルアップ通信 VOL.132

す。相手を否定することでしか自分の立場を確立できない人なのかもしれません。会議や打ち合わせのようなディスカッションの場ならいざ知らず、普段の雑談やお酒を飲んでいる席での何気ない会話では、「まず否定」は絶対にNG。自分が好きなものや気に入っていることの話をしているのに、のっけから「ダメ」「違う」「そうは思わない」では会話が弾むわけありません。

共感を示す振る舞いが信頼感を生む

たとえ自分はその会話の内容をイマイチとかつまらないと思っても、頭から相手の話を否定し、自分の価値観だけを声高に主張するようでは社会人としての品位が疑われます。人は誰だって「そだよな」と自分の話に共感されると嬉しくなるもの。そして共感してくれる相手には、親近感や信頼感を覚えていくものです。その真逆の行為が「いや、でも、だけど、しかし、違うー」といった頭ごなしの否定なのですね。そもそも相手が、自分とまったく同じ価値観や趣味趣向の持ち主であることなどまずあり得ません。人それぞれ、味覚も違えば、小説の好みも違います。それが個性であり、個性が違うからこそ人間同士の付き合いはおもしろいのです。なんでも否定や反対から入る人とは会話は続きません。いえ、会話をしたいと思わないでしょう。

何でも否定する人は仕事でも人間関係でも躓く

周囲からそう思われてコミュニケーションの機会が減れば、貴重な情報や役立つ話題も入手できなくなる。これではビジネスチャンスも逃してしまいます。何でも否定する人に仕事ができない人が多いのは、こういうことでもあるのです。自分の言葉が否定から始まってはいませんか？誰かを否定することに無頓着になっていませんか？なかには、悪気はないし否定するつもりもないけれど、無意識に会話のアタマについて「いや」「でも」「だけど」をつけるのがクセになっている人もいます。このクセは、自分で意識して気をつけ、直す努力をしたほうがいいでしょう。そうしないと、仕事でも人間関係でも必ず躓きます。相手の話には、否定ではなく「共感」から入る。自分の好き嫌いを押し付けず、相手の価値観を否定せず、興味や関心を持って歩み寄る。その姿勢ひとつで、人間関係もビジネスも大きく変わっていくのだと私は思います。

PRESIDENTO Online より引用

「軽自動車への給油は行わないでください」ガソスタの思わぬ“注意書き”に驚く声続出！

「教習所で教えたほうが良いよ」の声も

ガソリンスタンドの思わぬ“注意書き”がSNSで話題

ガソリンスタンドには、スタッフが誘導や給油をおこなってくれるフルサービス式と、セルフ式があります。セルフ式は、24時間営業しているところもあり、手軽さから利用しているという人も多いでしょう。SNSではそんなセルフ式のガソリンスタンドのある注意書きがSNSで話題となっています。こういった内容なのでしょうか。

一般的にガソリンスタンドには「レギュラー」「ハイオク」「軽油」の3種類の燃料があり、それぞれすぐに見分けがつくようにレギュラーは赤、ハイオクは黄、軽油は緑と色が分けられています。しかし、セルフ式ガソリンスタンドでは給油の入れ間違えるトラブルが多発していると言います。

なかでも、「軽自動車に軽油を入れる」というトラブルが発生しており、通常軽油はディーゼル車の燃料ですが、「軽」とついていることから誤って認識している人もいるようです。このためガソリンスタンドでは入れ間違いが起きないように対策が取られています。

SNSには「軽自動車＝軽油と思っている人結構いる」「ディーラーで実際にいるって聞いたことがある」との声が。他にも、「よく考えたら給油の仕方は教習所で教わらないよ」「教習所で教えたほうが良い」という声や「最初からディーゼル車用って書いてくれたら良いのにね」「わかつちやるけど、『軽』の『油』も見えるわな笑」と共感する声も見られます。

初心者ドライバーや自身で給油する機会が少ないというユーザーはうっかり入れ間違いをしてしまうということもあるかもしれません。

しかし、軽自動車に軽油をいれてしまうと最悪の場合エンジンが故障する場合もあり、大きなトラブルにつながることも。

こうならないためにも、給油する際に不安がある場合はフルサービス式を利用するか事前に自身の給油する燃料を確認して給油するように心がけましょう。

くるまのニュースより引用